（様式第８号）

事業報告書（令和　　２年度）

事業名　　岡山市立岡山後楽館高校生によるトンボの森づくり体験と環境学習

団体名　岡山市立岡山後楽館高等学校まちなかのふるさと教育実行委員会

担当者名　柴田美智子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
１．「トンボの森づくり体験と環境学習」 令和２年 10 月 28 日（水）15:45～17:30　岡山後楽館高等学校　１・２年次生 14 名 岡山後楽館中学校　　１年生　１名参加 「事前指導」　講師　小桐　登　様（一般社団法人　おかやまエコサポーターズ） ・事業内容の説明（３年前に作成された実施報告書「トンボの森づくり体験」を使用） ・森の機能や役割について（冊子「まにわのわ」と講師作成のプレゼンテーション資料を使用） ・森の整備の必要性について ・化石燃料に頼らない、自然資本を生かした経済の循環や自然の範囲の中で生活する日本人の知恵の伝承や新しいライフスタイルについて ・マイクロプラスチック問題について 令和２年 11 月７日（土）8:00～18:00 トンボの森、津黒高原荘など　高等部１・２年次生 12 名 中等部１年生　　１名参加 「トンボの森づくり体験と環境学習」 講師　小桐　登　様 川原　洋平　様（服部興業株式会社） ① オリエンテーション ・真庭トンボの森づくり活動の説明（目的、関係団体、活動の経緯、森の変化など） ・森の作業の注意と作業方法の説明、準備運動、身支度 ② 移動、講義、作業 ・移動しながら森の整備状況の説明 ・森の機能を考える ・森の役割と日本人の暮らしの関わり方の変遷の説明 （かつては、山菜やキノコなどを食物として利用したり、木を伐採して薪として利用したりしていたが、現在は森の中にあるものを使わなくなった。このような生活スタイルの変化が森に与えた影響と今後について）

コナラの伐採

（様式第８号）

２．ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ
・「トンボの森づくり体験と環境学習」を岡山後楽館高等学校の「まちなかのふるさと教育」の一貫の活動として位置付けることで、年１回だけ実施する活動ではなく、継続実施している西川や瀬戸内海での活動と連動することで、山川里海のつながりを学び持続可能な地域づくりに貢献できる生徒を育てる取組にした。 ・山川里海のつながりをしっかり理解した生徒が、西川の清掃活動以外に西川の環境保全活動の１つとして「西川水族館」（今年度は校内のみで実施）を実施し、ＳＤＧｓの視点を取り入れて川や海の環境を守ることの大切さをこれからも多くの人に伝えていく。 ・山川里海のすべての活動に参加した生徒が、実際に活動をする中で海ごみに対しての問題意識をもち自分たちにできる解決策を考えた。海ごみを減らすためのポスターを作成し、校内掲示をすることで生徒に海ごみやマイクロプラスチック問題についての啓発を行った。
３．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）
・森づくりを体験した生徒の中で、さらに川や海についても学びを深めた一部の生徒が、海ごみに対しての問題意識を高めるようになり、海ごみやマイクロプラスチックの削減のためにＳＤＧｓの視点を取り入れてポスターを作成し校内掲示を行うことで、環境を守る大切さを伝えることができた。 ・実際に森に入り、街の中との空気感の違いを肌で感じながら、笹刈りやコナラの伐採の様子の見学、伐採木の玉切りを体験して森を整備することの大変さや必要性を感じた生徒が多い。 ・伐採木の玉切りを体験することなどで、以前から行っていた「岡山県産材ふれあい事業」の間伐材の有効利用について改めて意義を感じることができた生徒がいた。 ・さまざまな活動に参加することで、自己肯定感が高まった生徒や、「ふるさと」としての岡山や西川の魅力を発見し、地域活性化や持続可能なまちづくりに関心を強めた生徒が増加した。 ・一般社団法人など外部団体と連携して、「トンボの森づくり体験」で新しいプログラムを実施することができた。 ・川と海をつなげてごみ問題について考え、解決策を考え行動に移す生徒が増加した。 ・生徒の感想 「自然は人の手が施されないほうが良いと思っていたが、実際は人が整備することが必要な場合があること、整備するためには知識や技術が必要であること、だから人手不足になることを感じた。」 「森に生えている木を利用した薪ボイラーなど、環境に配慮しかつお金を地域でまわすシステムが作られていてとてもすごいと思った。森の中に作られたアスレチックも森の良さを体験できる上に、リピーターが増えることで森に関わる人も増えるのでいいと思った。」 「資源を無駄にせず有効利用することが大切だと気づいた。」 「自分たちは森に行くことで森の機能や役割、整備の大変さや大切さを考えるきっかけが

（様式第８号）

③ 森の作業

・コナラの伐採の見学および伐採木の枝払いと玉切り体験

・笹刈り、間伐木の運搬作業

④ 森を楽しむプログラム

・ハンモック体験　　・アスレチック体験

・ネイチャーゲーム

⑤薪割体験および薪ボイラーの見学

講師　赤木　直人　様（一般社団法人　アシタカ）

⑥ 感想、振り返り

伐採木の玉切り

笹刈り

薪割体験

薪ボイラー見学

令和２年 11 月 ~~25~~ 18 日(水)　15:45～16:30

高等部　1・2 年次生 12 名　　中等部 1 名　参加

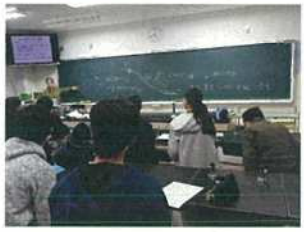
「事後指導」　講師　小桐　登　様

・体験を通して、気づいたことや学んだことの振り返り

・課題や問題だと感じたこと

・体験によって感じた事をもとに、自分たちに出来ることは何か

以上３点についてグループで話し合い、情報を共有



事後学習

２．マイクロプラスチック問題の解決に向けて

令和元年に海ごみに関する環境学習や、瀬戸内海の海ごみを回収・分別・調査を行った生徒が、海ごみを減らすための啓発ポスターを作成し、校内掲示を行った。

３．岡山県産木材ふれあい事業

「未来へつなぐ森林体験実行委員会」の協力により提供された岡山県産木材（ヒノキ）の間伐材を使って、生徒が「木工作品」を製作することにより、木材に慣れ親しむことができる。さらに、製作したベンチや木工製品を近隣の幼稚園や小学校や地域の施設などに提供することで、子供たちや地域の方々も県産材と触れ合うことができる。この取組をすることで、県産ヒノキ材利用促進にもつながる。

製作した作品

（様式第８号）

できたが、知らない人はたくさんいると思う。知らない人たちに広く「森と人間の関わり」を伝えていかないといけないと思った。」
４．今後の課題と展望
・外部団体と連携して山川里海のつながりを知る魅力的な活動プログラムを新たにつくることで、活動に参加する生徒の増加につなげていきたい。 ・同じような取組を行っている学校と交流し、さらに見識を拡大していくとともに活動内容の見直しを行う。 ・参加生徒から環境問題について考えるよい活動であるため継続してほしいという意見が多く、今後も「森づくり体験と環境学習」の活動を継続できるよう、生徒負担を軽減するためにも助成金などを申請する。